様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人 敬心学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療技術 専門課程	理学療法学科 昼間部（4年制）	夜・通信	3690 時間	80×4= 320 時間	
	作業用法学科 昼間部（4年制）	夜・通信	3495 時間	80×4= 320 時間	
	理学療法学科 夜間部（4年制）	夜・通信	3375 時間	45×4= 180 時間	
	作業療法学科 夜間部（4年制）	夜・通信	3252 時間	45×4= 180 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nitriha.com/pdf/kamoku-ptd-2025.pdf https://www.nitriha.com/pdf/kamoku-otd-2025.pdf https://www.nitriha.com/pdf/kamoku-ptn-2025.pdf https://www.nitriha.com/pdf/kamoku-otn-2025.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人 敬心学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校 HP にて役員名簿を公開している。

掲載：

<https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r7-meibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	私立大学 理事長	2025. 5. 26～2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	学園経営アドバイザー
非常勤	弁護士、私立大学法学部 教授	同上	法務関係アドバイザー
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人 敬心学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>理学療法学科昼間部(4年制)、作業療法学科昼間部(4年制)、理学療法学科夜間部(4年制)、作業療法学科夜間部(4年制)</p> <p>【授業計画書(以下、シラバス)の作成について】</p> <p>①カリキュラムについては、理学療法学科4年制(昼間部)・(夜間部)及び作業療法学科4年制(昼間部)・(夜間部)とも、理学療法士・作業療法士の養成教育に関する規範が関係法令に定められており、この法令に定める教育内容に関する最低基準を遵守しつつ、4年制の専門学校としての特徴を出すため、国の最低基準以上の教育内容を盛り込み、且つ4年間で段階的かつ体系的に十分学習できる教育内容と授業時間数を設定している。</p> <p>②教育方法については、臨床重視の視点に立った問題解決型教育システムを導入しており、基礎的臨床能力の育成を図る教育方法である。</p> <p>③シラバスの教育内容については上記に基づき、各学科の専任講師及び非常勤講師がそれぞれの担当科目について、講義内容を十分に検討し、その結果をシラバスに反映させたものを毎年2月に作成している。</p> <p>④シラバスには授業科目名、必要時間数、担当教員名、授業の到達目標及びテーマ、講義概要、授業計画(各回の授業プラン)、講義方法(遠隔か対面か)、成績評価方法、教科書及び参考書に関する事項及び当該担当教員の取得資格と実務経験を記載している。</p> <p>⑤講義予定(時間割)は前年の11月頃に専任講師及び非常勤講師に対し、次年度の予定を伺い、その結果を踏まえて毎年2月頃までに各学科長が作成している。シラバスも同時期に作成している。</p> <p>【授業計画書の公表について】</p> <p>・新学期開始までには、全在校生に対して本校のHP上の在学生サイトでシラバスの内容について公表を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>掲載：</p> <p>https://www.nitiraha.com/pdf/syllabus-ptd-2025.pdf</p> <p>https://www.nitiraha.com/pdf/syllabus-otd-2025.pdf</p> <p>https://www.nitiraha.com/pdf/syllabus-ptn-2025.pdf</p> <p>https://www.nitiraha.com/pdf/syllabus-otn-2025.pdf</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則上において、成績評価、履修、卒業要件について規定している。また、各学科ともシラバスに定める授業科目の試験（レポート含む）により成績評価を行っている。

【参考】

(学則 19 条 単位取得の認定)

学校長は、教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して単位取得の認定を行う。

- 2 試験の受験資格は各科目の総授業時間の3分の2以上の出席を要する。ただし、臨床実習の場合は、別に定める基準に基づき、単位取得の認定することができる。

(学則 20 条 授業科目の評価)

成績評価の時期は原則として各学期末とする。ただし、科目により臨時的試験を行う場合がある。

- 2 成績評価は当該科目の担当講師が、科目ごとに行う。ただし、複数の講師によって行われる科目の成績評価は、当該科目の責任者を定め担当講師が協議して行うものとする。
- 3 成績評価は目標の達成度を評定し、さらに学習態度及び修学状況を参考に行うものとする。
- 4 成績評価は90点以上をS、80点以上90点未満をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとする。60点未満はDとして不合格とする。
- 5 公欠に相当するやむを得ない理由により試験を欠席した場合は、その理由を記して学校長に届け出て、許可を受けた場合は追試験を受けることができる。その場合評価は定期試験と同じである。
- 6 再試験に合格した場合はCの評価となる。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
GPA の設定、取り組みについて、以下の通り指針を定めている。

1. GPAの基準

- ①全学的に統一した基準にする
- ②公平性、透明性に優れた基準である
- ③国際的に通用する基準である

2. GPA導入の目的

- ①科目ごとに学生の授業理解度を把握し、一定基準を下回る学生への指導及び教員の授業内容や方法の改善等を図るための資料として利用することを目的とする。

3. GPA評価の利用方法

- ①成績不振者への進路・学習指導の資料として利用する。
- ②留年、退学（進路変更）の警告の資料として利用する。
- ③学生の授業理解度を把握し、今後の授業内容や方法を改善する場合の資料として利用する。
- ④成績優秀者の選出の参考資料として利用する。
- ⑤就学支援制度の認定の可否の参考資料として利用する。

4. GPAの算出方法

(グレードポイント)

- 100～90点(S) →4
- 89～80点(A) →3
- 79～70点(B) →2
- 69～60点(C) →1
- 59～それ以下(D)または不合格 →0

(履修科目のグレードポイント×履修科目の単位数) の総和/履修科目
(不合格科目・無資格科目を含む) の単位数の総和

5. GPA計算基準

- ①GPAの計算期間は半期毎とする。
- ②留年生のGPA計算は、留年前のGPAは記録として残し、留年後の最終成績をもとにGPAを計算する。

6. GPAの評価基準値

- 0.0～2.3 勉強不足
- 2.4～2.8 平均
- 2.9～3.4 優秀
- 3.5～ かなり優秀

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.nitiriha.com/pdf/gpa.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

日本リハビリテーション専門学校の特徴は臨床重視型教育の実践により即戦力となる人間性豊かな理学療法士・作業療法士の養成を教育理念としている。

本校の卒業認定については、学則第21条（進級認定）及び第22条（卒業）に定める規定に基づき、4学科（理学療法学科4年制昼間部及び夜間部、作業療法学科4年制昼間部及び夜間部）の教育課程に定める所定の単位を修得した者は、本校成績判定会議の議決を得て、卒業が認定され、「高度専門士」の称号が付与される。

【参考】「日本リハビリテーション専門学校の養成課程カリキュラムの概要」

学校教育の具体的且つ実質的推進は、カリキュラムに基づいて行われることから、法令の定める教育内容及び単位数に関する最低基準を遵守しつつ、4年制の理学療法士・作業療法士養成校にふさわしい教育内容と単位数を勘案し、カリキュラムを策定している。

当校の4つの養成課程カリキュラムは、以下の要件を満たすものとして厚生労働大臣の承認を得ている。(平成18年4月1日から適用)

1. 修業年限が4年以上であること。
2. 課程の修了に必要な総授業時数が3400時間以上であること。
3. 体系的に教育課程が編成されていること。
4. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること。

卒業生には「高度専門士」の称号が与えられる。高度専門士には大学院の受験資格がある。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.nitiriha.com/pdf/policy.pdf>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人 敬心学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r6-zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r6-zaimu.pdf
財産目録	https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r6-zaimu.pdf
事業報告書	https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r6-houkoku.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/r6-zaimu.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		医療技術専門課程	理学療法学科昼間部 (4年制)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3840 単位時間/単位	1995 単位時間/単位	90 単位時間/単位	1755 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
	夜						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		251人	0人	10人	16人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照

卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 (概要) 個別相談、指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任が指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	34人 (94%)	2人 (6%)
(主な就職、業界等) 病院・老人保健施設			
(就職指導内容) 就職説明の実施・面接指導・履歴書の書き方等、求人情報を学生専用サイトで公開 その他、病院等を招き就職説明会を実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士国家資格(卒業と同時に受験資格取得)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
235人	17人	7.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、成績不振、体調不良等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・授業出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任等が指導を行っている。 ・担任が定期的に面談を実施し、学生の状況把握と必要に応じて指導を行っている。 ・成績不振者に対し、補講を実施している。		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療関係	医療技術専門課程	作業療法学科昼間部 (4年制)		○
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類	
			講義	演習
			実習	実験
				実技

4年	昼	3687			1428	894	1365	単位時間	単位時間
		単位時間/単位			単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		単位時間/単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
140人	100人	1人	7人	18人	25人				

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 個別相談、指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任が指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	29人 (88%)	4人 (12%)
（主な就職、業界等） 病院・介護保険施設・一般企業			
（就職指導内容） 就職説明の実施・面接指導・履歴書の書き方等、求人情報を学生専用サイトで公開 その他、病院等を招き就職説明会を実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士国家資格（卒業と同時に受験資格取得）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

119人	8人	6.7%
(中途退学の主な理由) 成績不振、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・授業出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任等が指導を行っている。 ・担任が定期的に面談を実施し、学生の状況把握と必要に応じて指導を行っている。 ・成績不振者に対し、補講を実施している。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		医療技術専門課程	理学療法学科夜間部 (4年制)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3465 単位時間/単位	1935 単位時間/単位	240 単位時間/単位	1290 単位時間/単位	75 単位時間/単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		112人	0人	7人	19人	26人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 個別相談、指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任が指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

26人 (100%)	0人 (0%)	22人 (85%)	4人 (15%)
(主な就職、業界等) 病院・診療所・一般企業			
(就職指導内容) 就職説明の実施・面接指導・履歴書の書き方等、求人情報を学生専用サイトで公開 その他、病院等を招き就職説明会を実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士国家資格(卒業と同時に受験資格取得)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114人	5人	4.4%
(中途退学の主な理由) 成績不振、体調不良、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・授業出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任等が指導を行っている。 ・担任が定期的に面談を実施し、学生の状況把握と必要に応じて指導を行っている。 ・成績不振者に対し、補講を実施している。		

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療関係	医療技術専門課程	作業療法学科夜間部 (4年制)		○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
4年	夜	3555 単位時間/単位	講義 1782 単位時間/単位	演習 510 単位時間/単位	
			実習 1263 単位時間/単位	実験 単位時間/単位	
				実技 単位時間/単位	
			単位時間/単位		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
140人	68人	0人	6人	18人	24人

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法

(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 個別相談、指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任が指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	15人 (68%)	7人 (32%)
(主な就職、業界等) 病院・障害者支援施設			
(就職指導内容) 就職説明の実施・面接指導・履歴書の書き方等、求人情報を学生専用サイトで公開 その他、病院等を招き就職説明会を実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 作業療法士国家資格(卒業と同時に受験資格取得)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	2人	2.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・授業出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対しクラス担任等が指導を行っている。 ・担任が定期的に面談を実施し、学生の状況把握と必要に応じて指導を行っている。 ・成績不振者に対し、補講を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科 昼間部 (4年制)	500,000円	800,000円	600,000円	
作業療法学科 昼間部 (4年制)	500,000円	800,000円	600,000円	
理学療法学科 昼間部 (4年制)	500,000円	600,000円	600,000円	
作業療法学科 昼間部 (4年制)	500,000円	600,000円	600,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HPに公開している https://www.nitiriha.com/pdf/evaluation/report-r6.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 理学療法士・作業療法士に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、医療・施設の業界有識者や学識経験者及びリハビリテーション医療に関する知識、技術、技能について知見を有するリハビリテーション専門職などの意見をそれぞれに反映させるべく、当該外部委員と本校の教職員を構成員とする「学校関係者評価委員会」を設置している。委員会は年2回以上開催し、本校が「専修学校における学校評価のガイドライン」に基づき実施している自己評価結果について、学校関係者評価委員会で評価している。 外部委員の意見等を反映させながら、時代のニーズに応じて、医療・福祉業界が求める病院や施設で即戦力となる医療専門職を育成する視点から教育活動等学校運営の一層の改善を図っていく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
介護老人保健施設 作業療法士	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	卒業生
総合病院リハビリテーション科科长 理学療法士	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	卒業生
業界団体	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	業界団体役職者
クリニック 作業療法士	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	卒業生
老人保健施設 理学療法士	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	専門職

総合病院 リハビリテーション科 理学療法士	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	専門職
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP に公表している https://www.nitriha.com/pdf/evaluation/R6-evaluation1.pdf https://www.nitriha.com/pdf/evaluation/R6-evaluation2.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.nitriha.com/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311600397
学校名 (〇〇大学 等)	日本リハビリテーション専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 敬心学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		48 人 (-人)	46 人 (-人)	52 人 (-人)
内訳	第Ⅰ区分	30 人	22 人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(-人)	
	第Ⅱ区分	- 人	15 人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	- 人	
区分外 (多子世帯)	0 人	0 人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				- 人 (-人)
合計 (年間)				52 人 (-人)
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当)	0 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	- 人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0 人	人	人
GPA等が下位4分の1	- 人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。